

奥漣道路(Ⅱ期)

地域の夢と活力を育む道づくり



国土交通省 近畿地方整備局
紀南河川国道事務所

地域間交通の安定性と生活利便性の向上を実現し
観光資源豊かな奥熊野地域のさらなる発展に寄与します

奥漣道路(Ⅱ期)

事業の目的

- 国道169号の線形不良区間の解消
- 災害時や緊急時における交通確保
- 沿線地域の活性化と交流推進



事業の概要

国道169号のうち、和歌山県の飛び地である東牟婁郡北山村から奈良県吉野郡十津川村に跨る区間は、徒歩でしか通れないいわゆる交通不能区間となっていました。

奥漣道路は、この交通不能区間を解消し、災害時や緊急時における交通機能を確保するとともに、沿線地域の活性化と交流促進を図るために計画された道路です。昭和56年度に事業化し、平成20年7月12日に北山村小松—新宮市熊野川町玉置口間(6.3km)が開通しました。

奥漣道路の隣接区間である奥漣道路(Ⅱ期)が平成19年度に事業化され、引き続き、異常気象時通行規制区間の解除と、幅員狭小・線形不良区間における問題を解消し、更なる地域間交通・日常生活の利便性の向上に寄与するため、現在整備を進めているところです。



国道169号の線形不良区間



土砂崩落(竹園村道)

奥漣道路・奥漣道路(Ⅱ期)に寄せる地域の期待

なくてはならない生活基盤、奥漣道路。一日も早い全通は全村民の悲願です。



和歌山県北山村
村長: 奥田 真さん

住民の安全・安心を守るために、道路は何よりも重要な生活基盤。とりわけ周囲を険しい山々に囲まれた北山村にとって、道路網の整備は喫緊の課題です。平成8年の奥漣道路一部区間の開通は、生活の利便性向上はもちろん、産業活動や防災面、さらには観光面でも大きな役割を果たしました。しかし、未整備区間には依然として道幅の狭い箇所も多く、道路環境の一面の整備が悲願であること変わりありません。このたび奥漣道路(Ⅱ期)工事が事業化されたことは私たち村民にとって大きな喜びであり、道路特定財源の効率的な運用によって事業を推進していただき、一日も早く全線開通することを念願しています。

北山村の財産「じゃばら」を全国へ。地域の健全な発展を推進する道づくりを。



じゃばら生産組合
組合長: 荒井 渉さん

唯一の飛び地の村、唯一の観光資源、そして唯一のじゃばらの里。北山村には3つの「日本でただひとつ」があります。このうち北山村特産の柑橘類であるじゃばらは、近年マスコミでもたびたび紹介され、全国から注文が届くようになりました。村でもこの自然の恵みを産業に活かそうと、さまざまな取り組みを始めています。このような対外的な交流を進める上で、道路の存在は必要不可欠です。奥漣道路は地域産業の進展はもちろん、高齢化が進む住民にとっては救急医療の面でも命を守る道として大きな役割も担うもの。自然とともに生き、地域独自の発展を進めるためにも、奥漣道路に対する期待は増すばかりです。